

マナマコ

Stichopus japonicus

地方名
あかなまこ、あおなまこ、
くろなまこ



生態

寿命：7～8歳程度

成熟：体重100g以上

産卵期：5月中旬～7月中旬（水温13～16が最盛期）。

生態：ふ化後2～3週間浮遊生活した後、藻などに付着、ふ化後50日～60日で付着物から離脱して底生生活に移行。成長できる水温帯が16～17（11月～翌6月）であり、夏期（7月～10月）には夏眠する。主分布域は潮間帯から水深40mまでの泥場、砂礫帯、藻場等である。生息周辺にある砂泥などを食べ、それに含まれる海藻の破片などの有機物を消化して栄養をとる。

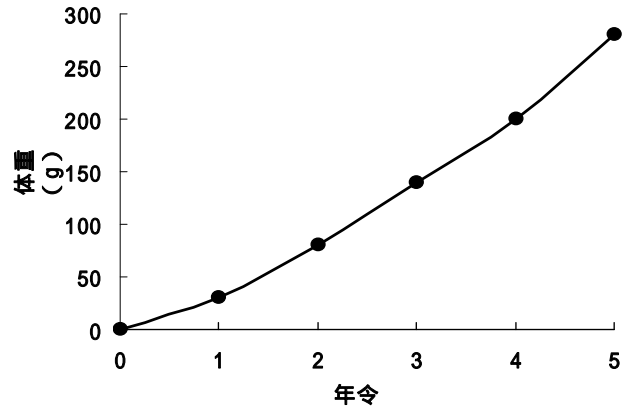


図 青森県マナマコの成長

主な漁業

本県のほぼ全域に分布するが、特に陸奥湾に多く分布する。主になまこけた網と採貝漁業で漁獲される。陸奥湾内の浅所では、潜水採捕するところもある。冬場に多く漁獲される。

資源評価

昭和63年の293トンを超えて最低に漁獲量は増加しており、近年は特に増加量が多い。平成19年は昭和50年以来最高の1,653トンを記録した。

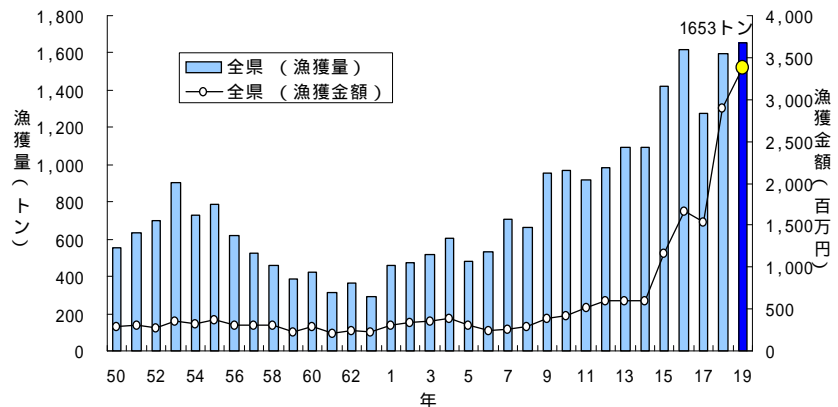


図 青森県マナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

資源管理計画（むつ市漁協、横浜町漁協 平成10年3月）

・操業区域の制限、稚マナマコの保護などを定めた。

青森県海面漁業調整規則による採捕の禁止期間（5月1日～9月30日）や漁具の制限（なまこけた網：網の目合6cm以上）を遵守し、安定した漁獲につなげることが必要。

トピックス

川内町漁協青年部は、資源管理を含めたマナマコに対する取り組みが認められ、平成16年度天皇杯を受賞した。